

オンライン授業のよさを生かしたアクティブ・ラーニングの実践研究

—zoom によるグループワークを通して—

法政大学兼任講師・教職課程センター相談指導員 田神 仁

0 概要

昨年、洗足学園音楽大学の教職課程年報に「大学におけるアクティブ・ラーニングの実践研究 — 授業実践を通じた成果と課題 —」という研究主題で論文*1を掲載していただいた。今年度は、コロナ禍に伴い、期せずしてオンライン授業を行うことになった。この機会を生かし、本研究では昨年の研究成果を踏まえ、オンライン授業で行うアクティブ・ラーニングについて授業実践を通して研究を深めた。本研究の成果を大学のみならず、中学校・高等学校のオンライン教育の充実に資することができれば幸いである。この時期に zoom を用いた授業実践研究は、新しいのではないかと考える。

1 研究主題設定理由

コロナ禍ではあるが、2020 年度から小学校の新学習指導要領が実施されている。来年以降、順次中学校・高等学校で新学習指導要領が実施されていく。そのねらいは多々あるが、大きくは、これからの持続可能な社会を創造する人材育成である。具体的には、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等の確かな学力をはじめとする知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成である。そして、それらの実現のために「主体的・対話的で深い学び」が極めて強く求められている。これに先立つこと 8 年前、平成 24 年 8 月中央教育審議会答申*2「4. 求められる学士課程教育の質的転換（学士課程教育の質的転換）」が出され、大学のアクティブ・ラーニングへの授業改善が強く叫ばれた。ここでいう「アクティブ・ラーニング」と「主体的・対話的で深い学び」をほぼ同意語と考えてよいなら、大学で先行実施されているアクティブ・ラーニングの在り方が、これからの初等・中等教育の将来を左右すると言えるのではないだろうか。そこで、筆者は昨年、「大学におけるアクティブ・ラーニングの実践研究 — 授業実践を通じた成果と課題 —」という研究主題で実践的研究を行うこととした。その研究成果を踏まえ、新型コロナ対策として始められたオンライン授業においてもアクティブ・ラーニングの成果が出せるのではないかと

期待を抱いたことが、本研究主題設定の理由である。

2 研究目的、研究仮説、研究方法

(1) 研究目的

オンライン授業においてアクティブ・ラーニングを実践することにより、対面授業におけるそれとの違いを探るとともに、オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの成果と課題を明確にする。そして、その成果を大学におけるオンライン授業の改善のみならず、中学校・高等学校におけるオンライン授業における「主体的・対話的で深い学び」の更なる充実に資することを研究目的とする。

(2) 研究仮説

本研究では、研究仮説を次のように設定し、授業実践を通して検証を図った。

【研究仮説】

「オンライン授業のよさを生かして指導内容や指導方法を工夫すれば、オンライン授業においてもアクティブ・ラーニングを実現できるであろう。」

(3) 研究方法

本研究では、大学におけるオンライン授業において多様なアクティブ・ラーニングを実践し、それにより成果と課題を明らかにする。

3 研究内容

(1) アクティブ・ラーニングに関する基礎研究

ア 平成 24 (2012) 年中央教育審議会答申から
(筆者の研究論文*1から引用)

平成 24 年 8 月中央教育審議会答申「4. 求められる学士課程教育の質的転換（学士課程教育の質的転換）」において、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生

が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。（下線筆者）」と、これからの大学教育におけるアクティブ・ラーニングの重要性が強調されている。

イ 文部科学省の先行研究から

平成 26 年 11 月文部科学省「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」アクティブ・ラーニング失敗事例ハンドブック^{*3}には、図 1-1、図 1-2（以下「失敗マングラ」と記す）にあるように、アクティブ・ラーニングにおける失敗結果とその原因が明記されている。本研究では、その中で「グループワーク無機能化」の部分に焦点を当て、オンライン授業におけるグループワークを中心に実践を行った。特に、教員の失敗原因である「過剰介入」「介入不足」や学生の原因である「発言しない」「提出物の不管理」などに留意しながら実践を進めることとする。

(2) オンライン授業を通じた実践研究

ア オンライン授業実施大学及び実施科目

筆者は今年度、下記 3 大学の教職課程科目においてオンライン授業を行った。

(ア) H 大学

理工学部・生命科学部 100 分間×14 回

「数学科教育法(1)」「数学科教育法(2)」各 40 名

「教育実習事前指導」「教職実践演習」各 50 名

(イ) S 大学 音楽学部 90 分間×15 回×2 期

「生徒指導・進路指導論」30 名

(ウ) M 大学 工学部 数理工学科 100 分間×14 回

「教育実習 I・II」7 名

イ オンライン授業の方法

どの大学においても、ビデオ会議システム zoom による疑似対面授業と大学の学習支援システムを併用した。その理由は、2 つある。一つ目は、本研究の主軸であるグループワークを円滑に行えるビデオ会議システムが zoom のブレイクアウトルームであったこと。もう一つは、学習支援システムを用いる方が、毎回学生が提出する課題の管理や筆者がそれらにコメントを書き返す作業を円滑かつ確実にこなす

るからである。

ウ オンライン授業の工夫

(ア) 指導内容の工夫

対面授業と比較するため、指導内容については、可能な限りこれまで対面授業で行ってきた内容と同じにする。具体的には、最初の 20~30 分はパワーポイントを用いた講義形式。残りの 60~70 分をグループワークによる演習とする。対面授業と異なるのは、スクリーン投影の代わりに zoom による画面共有機能を用いることと、グループワークに zoom のブレイクアウトルームを用いることである。

(イ) 指導方法の工夫

これも対面授業で行ってきたグループワークの方法を可能な限りオンライン授業でも実施することとする。それにより、対面授業と比較したオンライン授業における成果と課題が明らかになるからである。また、板書が必要ときには zoom の「ホワイトボード」機能を用いてオンライン上で板書を行う。実際に行う指導の工夫（アクティブ・ラーニング）は、次のとおりである。

ア グループ協議

イ ロール・プレイング（役割演技）

ウ ディベート

エ 調べ学習

オ ジグソー学習

カ 模擬授業

キ ティーム・ティーチング（TT）

ク 提出課題へのコメント記入及び返却

以下、これらの実践を通して研究仮説の検証を行う。

エ 研究仮説の検証

(ア) グループ協議

これは、zoom のブレイクアウトルームを用いて 4~6 人で話し合いを行うものである。与えられた事例に対して意見交換をさせたり、動画を見て問題点を協議させたりした。また、ロール・プレイングやディベートの後の振り返りとしても実施し、グループワークの中心活動である。グループのメンバー編成は、zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて毎回無作為に行った。その結果、グループ協議を充実させるための留意点が、実践を通して明らかになった。それは、次の 3 点である。

- 1) グループ協議に入る前に個人研究の時間を設け、各自が自分の意見をしっかりとって協議に臨める

図 1-1

アクティブラーニング失敗結果マンダラ

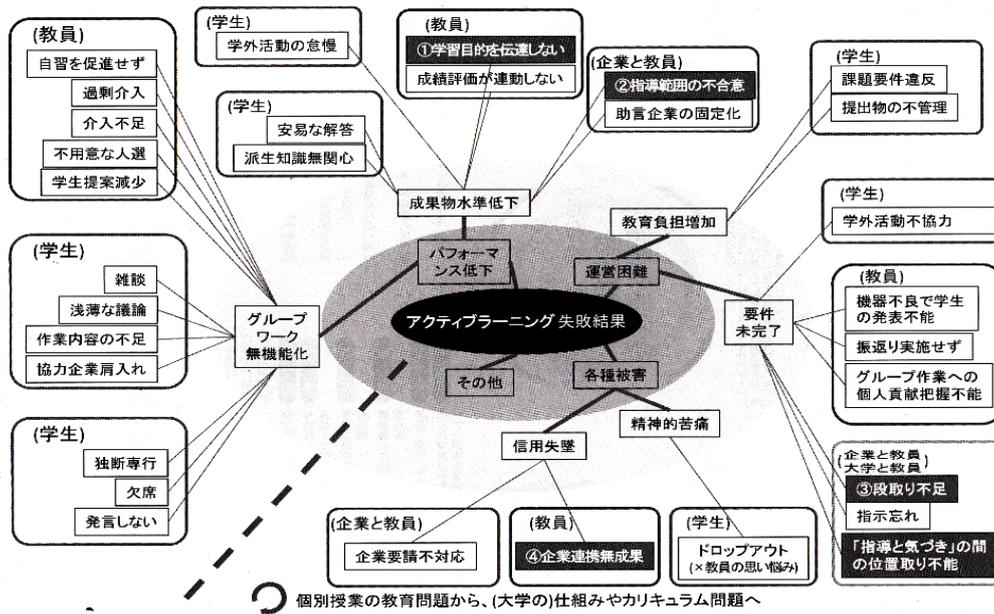
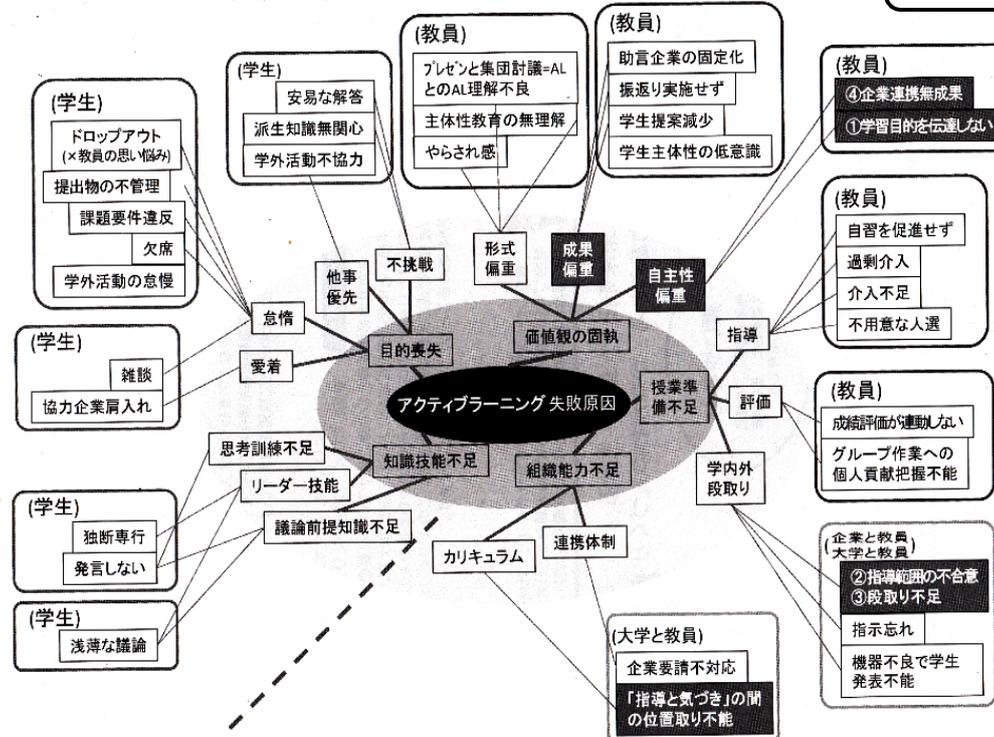


図 1-2

アクティブラーニング失敗原因マンダラ



ようにすること。

- 2) グループ協議の最初に 15 秒間の自己紹介を行い、アイス・ブレイキング（緊張緩和）とする。
- 3) グループ協議の時間を十分に取り、話し足りないことがないようにする。

上記 1) について。演習課題にもよるが、対面授業では個人研究として概ね 5 分間とった。しかし、オンラインでは 5 分間では足りなかつたので、概ね 7 分間に増やした。そして、その間は画面にタイマーを表示し、学生が時間の見通しをもてるよう配慮した。また、授業後に学生が行う作業の負担を減らすために、学生が授業中に Microsoft Word で課題に入力してデータとして提出する形をとった。その理由は、そうすれば、グループワークをしながら記入できるからである。

上記 2) について。受講者は多様な学科や専攻にわたっており、互いに知り合いではないことが多い。そこで緊張をほぐし、議論を円滑にするために一人 15 秒の自己紹介を通してアイス・ブレイキングを行った。その結果、互いの距離が近くなり、忌憚のない議論ができた。この方法は、後ほど述べる TT を行った同僚教師から学んだことである。15 秒にしたのは、長くするとグループワークの時間が足りなくなるからであるが、これは Web の zoom による授業実践動画（イワツキ大学）*4 から学んだことである。

上記 3) について。対面授業ではグループ協議の時間を 8 分間としていたが、4 月当初のオンライン授業では 10 分間×1 回を基本とした。その理由は、対面授業ではすぐに話し合いが始まるが、オンラインではブレイクアウトルームに移った後、何故かどの班も一旦沈黙が起きていたからである。若干の沈黙の後、リーダー的な学生が司会を務めて話し合いが始まる。その時間が長いときがあり、8 分間では話し合いが終わらないことがあった。その後、提出課題の「今日の授業の感想・質問等」の欄に「グループ協議の時間を長くしてほしい」という要望が増えた。併せて、自己紹介を導入したこともあり、時間を 12 分×2 回とした。その後、時間にゆとりがある回では 15 分×2 回とした。実際に行ってみると、15 分の場合は、各自の体験談など授業に関連する雑談が生じていて、それが学びを深めるいい材料になっていた。また、課題にもよるが、グループ協議だけのときは、1 回目と 2 回目で班のメンバーを替え、2 回目の話し合いでは 1 回目に出た意見も持ち寄ることとした。そして、2 回目には発表者を互選し、1 班当たり 1～2 分以内で発表会を行った。発表会については、当初は全体での発表会としていたが、班の数が 6～7 班あると発表に時間がかかり、指導・講評や授業のまとめの時間が圧迫された。そこで、TT を行った同僚から学び、ブレイクアウトルームを

用いて 2～3 班合同の同時発表会に変えた。そうすることで時間短縮になるだけでなく、大勢の前で発表するという緊張感が和らいでいた。ただ、ビデオ ON（通称「顔出し」）を嫌がる学生が多数いて、強制するわけにもいかず、班によっては画面に名前しか映っていない中、声だけで話し合いを進めていた。また、「顔を見て話さないと話している気がしない」という声が授業の感想に寄せられていた。しかし、大学に確認したところ、「ビデオ ON を義務付けるわけにはいかない」とのことなので、ビデオ ON について学生からの要望が多かったことを全員に伝え、全体講義ではビデオ OFF でも構わないが、グループワークでは可能な限りビデオ ON で行ってほしいと依頼した。ロール・プレイングやディベートでは、顔を見ないで話していたのでは効果が半減するからである。

(イ) ロール・プレイング（役割演技）

これは、H 大学の「教職実践演習」と S 大学の「生活指導・進路指導論」で行ったグループワークである。担任 vs 保護者、担任 vs 生徒などの事例を用意し、苦情対応や生徒との相談を疑似体験させた。どの大学の学生も意欲的に取り組んでおり、役になりきることを楽しんでいる様子であった。

ロール・プレイングを 2 回行った後にグループ協議で担任役のよかった点と課題について振り返るという形である。苦情対応の時には、生徒指導では「学校に対する不信感でいっぱい、けんか腰の保護者」と「子育てにほとんど困っている、気弱な保護者」、キャリア教育では「クリニックの跡継ぎのことしか考えていない保護者」と「やればできると医学部合格を信じて疑わない保護者」というように保護者のタイプを指定し、担任として多様な保護者に対応できるようにした（図 2 参照）。指導に当たっては、教師が「モンスター・ペアレント」や「クレーマー」という単語を使ったら苦情は解決しないこと、苦情を言ってくる保護者や地域の方は敵ではなく、むしろ学校に関心をもっているの、対応した結果、心が通えば強力な味方になることを強調した。学生の感想には、「相手の圧に負けて何も言い返せなかった」「気弱な保護者が話そうとしないので沈黙が続いた」などと書かれており、授業中に役割演技がうまく行っていたことから実際の保護者対応で生じることを実体験できた様子が伺える。

(ロ) ディベート

これも、H 大学の「教職実践演習」と S 大学の「生活指導・進路指導論」で行ったグループワークである。教材は、「公立高校における頭髪指導の年次進行による導入に賛成か反対か」という事例である。個人研究

教育相談における保護者との関わり方

氏名 _____ 整理番号 _____

- ① 個人研究:6分間 ② 役割分担:3分間 ③ ロールフレイミング:10分間×2回
④ 休憩:5分間 ⑤ グループ協議:10分間&15分間 ⑥ 発表:①1分間

(1) [個人研究:6分間] 次の事例を読んで、状況を把握しなさい。

A高校は住宅地にある学校で、校長は、学校経営方針に「部活動の活性化」を謳っており、部活動の指導に力を入れている。A高校の吹奏楽部は県内でコンクール入賞の常連校であり、外部指導員がいて、練習は厳しい。また、顧問が付いていれば下校時刻を過ぎても練習を行うことができるので、生徒が下校するのが午後6時30分頃になることも多い。2年生の生徒Bは吹奏楽部に所属しており、コンクール金賞入賞と野球部の応援練習のため日々練習している。

7月のある日、生徒Bの保護者から担任Cに相談があるという電話がかかってきた。電話では話せないと言うので、担任Cは、学校で保護者と面談することにした。面談当日、生徒Bの保護者から担任Cに対して、次のような相談があった。「娘は、学校から帰ってくると部活動で疲れ果てて、夕食をとるとすぐに寝てしまう。吹奏楽部の練習が負担になって全く勉強ができない。入学以来、成績は下がる一方である。このままでは志望している難関大学法学部に合格できなくなる。親としては部をやめて勉強に集中してほしいが、娘は部をやめたくないと言っている。部をやめた後、吹奏楽部の仲間を気にして不登校になって困る」と。担任Cは、生徒Bの保護者とともに解決策を考えることにした。

(2) [役割分担:3分間] ★初めに一人15秒で自己紹介を行う。

- 【1回目】担任C vs 生徒Bの保護者(学校に対する不信感でいっぱい、けんか腰の保護者)
【2回目】担任C vs 生徒Bの保護者(子育てにほとほと困っている、気弱な保護者)

(3) [ロールフレイミング:10分間×2回]

- ① 上記の事例を基にしてロールフレイミング(役割演技)を2回行いなさい。
② ロールフレイミングをしていない人は、担任C役の人の対応が教育相談という点で、よかった点と問題点だと思ったことを書きなさい。(ロールフレイミングしている→記入不要)

1 担任C役の教育相談について

(グループ協議で、なるほどと思った意見があれば追記してください)

(よかった点)

【1回目】

- ・冷静に話をきいて対応できていた。
- ・学校の方針を説明できていた。

【2回目】

- ・話をきいて一つ一つ丁寧に対応できていた。
- ・具体的な改善策をだしてよかった。
- ・保護者に寄り添ってできていた。

コメントの追加 [田神1]: OK

コメントの追加 [田神2]: とっても大切なことです。

コメントの追加 [田神3]: 重要です。

コメントの追加 [田神4]: 一番大切です。

の後、班ごとに作戦会議を行い、ブレイクアウトルームを用いて2班対抗で3グループ同時にディベートを行った。ディベートで重要なことは、2回行い、賛成と反対の両方の立場を経験することである。このことにより多面的なものの見方を身に付けることができる。学生の感想では「自分の考えと反対の立場でも意見を述べなければならないのが難しかった」という声が多かった(図3参照)。実際にzoomによるディベートを行って分かったことだが、班の作戦タイムではzoomのブレイクアウトルームで行う方が、対面授業で行うよりもよかった。それは、他班の作戦会議が全く聞こえないからである。対面授業では教室の座席を区切って作戦会議を行うため、隣の班の話合いが聞こえてしまうのである。

時間的には厳しいが、学生の感想にあった「最初だけでなく、相手の意見を聞いた後にも作戦会議を行いたい」という点についてはもっともであり、そのための時間配分が今後の課題である。

(I) 調べ学習

これは、H大学の「数学科教育法(1)(2)」で実施したグループワークである。昨年対面授業で実施したが、オンラインで行うのは、もちろん初めてである。6つに班分けを行った後、40分間に班内で分担して与えられたテーマについて調べ、パワーポイントのスライドを作成し、5分間のプレゼンテーションを行うというものである。今年度のテーマは、「教員の働き方改革」「評価に関する中教審答申」「GIGAスクール構想」の3つである。昨年の対面授業では、「STEAM教育」「SDG's&ESD」「Society 5.0」とした。対面授業では、全体で発表する時間を考え、調べる時間を30分としたが、オンラインではテーマの異なる3つの班で1部屋とし、2部屋同時に発表会を行えたので、調べる時間を40分間に増やすことができた。発表会に要した時間は、対面授業では5分間×6班=30分間必要であったが、zoomのブレイクアウトルームを3班合同で2部屋を用いて5分間×3班=15分間で済んだ。

図 3

基本的な生活習慣の確立、校則

教科 (数学) 整理番号 _____ 氏名 _____

(1) [個人研究] (8分間) 次の事例を読み、下の【問い】に解答しなさい。

県立A高校は住宅地にあり、日頃から近隣住民からの苦情や要望が多い。そのため、今年着任したB校長は、学校経営方針に「生徒指導の充実」、特に「基本的な生活習慣の充実」を掲げて学校改革を始めることにした。現在A高校には制服がなく、頭髪についても特に決まりを設けてはいない。A高校を所管する県教育委員会の方針で3年前から学区が撤廃されており、県内の中学校卒業生は県内のどの県立高校でも受験できる。そのため、茶髪生徒の多いA高校の受験者は年々減少し、今年の入学選抜では定員を割ってしまい、全入となった。その結果、学校がますます荒れてきた。中学校や保護者からの評判も年々悪くなってきている。

6月のある日、B校長は、企画調整会議(各分掌主任や学年主任の会議)で、「本校生徒の服装や茶髪などに関して近隣住民や中学校からの苦情が大変多い。このまま入学者が減れば、本校は統廃合の対象になってしまうだろう。つまり、卒業生の母校がなくなってしまう。それを防ぐためには、基本的な生活習慣、特に頭髪指導と服装指導の充実を図る必要がある。そこで、まずは来年度の新入生から年次進行で「頭髪指導の導入」を考えている。このことについて先生方、生徒、生徒会役員の生徒、中学生、中学生の保護者、近隣住民の意見を聞いてから結論を出したい」と話した。

※「年次進行」とは1年目は1年生のみ、2年目は1・2年生、3年目に全校生徒と、3年間かけて導入すること。

【問い】「新入生からの頭髪指導の年次進行導入」について賛成と反対、それぞれの立場で理由を記入しなさい。(後から作戦会議の内容を追加してもよい)

「新入生からの頭髪指導の年次進行導入」に賛成の理由

- ・頭髪をしっかりと指導すれば入学者が見込めて統廃合の対象にならずに済む。
- ・荒廃した姿が変わったことを、地域住民の方にも生徒の服装や頭髪によって分かり易く伝えることができる。
- ・社会に出るときのために頭髪や服装の指導をした方が良い。

「新入生からの頭髪指導の年次進行導入」に反対の理由

- ・年次進行ではなく全校を対象にすべき。
- ・頭髪や服装の指導ではなく、他のことで学校の魅力を出していくべき。
- ・自由な校則によって個性を引き伸ばすことが出来る可能性がある。

(2) 【ディベート】 (45分間)

別紙手順に従って、賛成・反対に分かれてディベートしなさい。

(3) 【発表】 (②2分間)

(4) この授業に関する質問・感想

賛成意見と反対意見をそれぞれ考えることによって、いろんな面から物事を考察することができた。また、賛成派の意見を聞いてからそれに反対する意見を考えることによって自分の班では出なかった意見を新たに考えることやそういう意見もあったのかと気づかせられた。

コメントの追加 [田神1]: それほど簡単ではありませんが。

コメントの追加 [田神2]: 確かに。

コメントの追加 [田神3]: なるほど、「学校は社会の縮図」という理論は昔からあります。

コメントの追加 [田神4]: 全員一斉導入は在校生との入学時の約束(契約)違反になるので、公立学校では余程やんちゃな校長でなければ年次進行にしましょう。

コメントの追加 [田神5]: 例えば?

コメントの追加 [田神6]: 具体的には?

コメントの追加 [田神7]: それはよかったです。それがディベートのよさですね。

また、事前に与えた指示は、「みんなで作業を分担すること」「Webサイトを引用した場合は、URLをスライドに明記すること」「1枚目のスライドに班名とメンバーの一覧を書くこと」の3点である。そして、班内でのデータのやりとりには zoom のチャット機能にデータを添付することで行った。実際、どの班も限られた時間を有効に使って意欲的に取り組み、見事なプレゼンテーションを行っていた。個々の提出課題では、自ら調べたテーマだけでなく、他の班の発表から学んだことも記入させるようにし、各班が作成した発表内容を pdf にして次回全員に配布した。これらの資料は、特に教員採用試験受験者にとって貴重なものとなるであろう (図 4-1、図 4-2 参照)。

(オ) ジグソー学習

本研究におけるジグソー学習は、班内役割分担を行い、役割ごとに班編成をし直し、議論した後元に戻って検討し、結論を出すという集団ルール・プレイングに近い形をとった。教材は、ディベートと同じ「公立高校における頭髪指導の年次進行による導入に

賛成か反対か」という事例を用い、立場としては「教員」「在校生」「生徒会役員」「その高校を志望する中学生」「その中学生の保護者」「近隣住民」とした。年次進行による頭髪指導の導入のため、筆者の当初の予想では在校生は無関心ではないかと考えていた。しかし実際には、「頭髪が自由なので入学した。卒業まで自分は現状維持とはいえ、例えば4年後に教育実習生として母校に戻ったときに頭髪指導をしなくてはならないのは嫌だ」など、先々のことまで議論されていたのに驚いた。また、どの班でも「学校の存続問題」「人権問題」「頭髪などの身だしなみは個性」「学校は社会の縮図」「高校生らしい身だしなみとは何か」等、現職教員と同じような点が争点になっていたのには感心させられた。これらから、対面授業とほぼ変わらぬ成果を得られたと認識できた。当初、グループメンバーをブレイクアウトルームでその都度編成し直す作業に時間と手間がかかった点は、今後の課題として残った。しかし、その後 zoom がバージョンアップされ、学生が自分でブレイクアウトルームを移動できる機能が付いたため、対面授業と同じようにブレイクアウト

調べ学習「教育時事」

整理番号 _____ 氏名 _____

(1) 調べたことや発表を聞いて分かったことを記入しなさい。(欄に入る程度の箇条書きで)

① 教員の働き方改革

(意味・内容)

- ・学校及び教師が担う業務の明確化
- ・学校の組織運営体制の在り方
- ・勤務時間の在り方に関する意識

(背景・目的)

- ・小中学校の教員で過労死ラインを教員は半数を超えている
- ・上のような現実で、教員の心身の健康を守ることを目的に
- ・働きやすい環境の整備が優秀な人材の確保にもつながる。

(実施上の留意点)

- ・業務の仕分けを検討しているが、限られた予算から行うため自治体によって差が生じてしまう
- ・地域によって格差が生じるのを、国として援助することが必要不可欠

very Good!

② 中教審答申「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」

(意味・内容)

- ・中教審とは中央教育審議会で文部科学省に設けられている有識者の組織
 - ・学習評価は学校の教育活動の根幹で、組織的かつ計画的に教育活動の向上を図る
 - ・主体的・対話的で深い学びの視点からの従業改善で各教科の資質・能力を育成する上での役割
- (背景・目的)
- ・新しい学習指導要領の下での各学校におけるカリキュラムマネジメント確立(上記2番目)
 - ・試験の評価に終始してしまい、児童生徒の学習評価の改善につなげていない現実
 - ・教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。

(実施上の留意点)

- ・学習評価が児童生徒学習改善につながるものにする。
- ・これまでの慣行として行われてきたものの必要性・妥当性を再度検討すること。

③ GIGAスクール構想

(意味・内容)

- ・GIGAの日本語訳は「すべて人に革新的な入口を」
 - ・児童・生徒一人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備すること
 - ・多様な子供たちを誰一人残さず、公正に、持続的に全国の学校現場で実施をさせる構想
- (背景・目的)

- ・日本語指導を必要とする生徒や発達障害を抱えた生徒など多様な子供たちの存在が認知された
- ・子供たちが教育によって目指すべき未来社会の姿(Society5.0)に適應すること
- ・国際調査によって諸外国に比べてICT活用が遅れていることが明らかになったこと(背景)

(実施上の留意点)

- ・セキュリティの強化、安定したインターネット環境の整備
- ・教員自体がインターネット等のトラブルに対応できるようになること

基本的な生活習慣の確立、校内規律に関する指導の基本

氏名 _____ 整理番号 _____

(1) [役割分担] (3分間) 6班編成

(1) 必ず自分の班名を覚えておくこと。

(2) 各班で次の立場ごとに役割を分担しなさい。ただし、必ず誰かが教員になること。

- ①教員 ②在校生 ③生徒会役員 ④A高校志望の中学生
⑤A高校志望の中学生の保護者 ⑥近隣住民

(2) [個人研究] (7分間)

各自の立場に立って次の事例を読み、下の欄に賛成か反対か、その理由を書きなさい。

県立A高校は住宅地にあり、日頃から近隣住民からの苦情や要望が多い。そのため、今年着任したB校長は、学校経営方針に「生徒指導の充実」、特に「基本的な生活習慣の充実」を掲げて学校改革を始めることにした。現在A高校には制服がなく、髪型についても特に決まりを設けてはいない。A高校を所管する県教育委員会の方針で3年前から学区が撤廃されており、県内の中学校卒業生は県内のどの県立高校でも受験できる。そのため、茶髪生徒の多いA高校の受験者は年々減少し、今年の入学選抜では定員を割ってしまい、全入となった。その結果、学校がますます荒れてきた。中学校や保護者からの評判も年々悪くなってきている。

6月のある日、B校長は、企画調整会議（各分掌主任や学年主任の会議）で、「本校生徒の服装や茶髪などに関して近隣住民や中学校からの苦情が大変多い。このまま入学者が減れば、本校は統廃合の対象になってしまうでしょう。つまり、卒業生の母校がなくなってしまうわけです。それを防ぐためには、基本的な生活習慣、特に髪型指導と服装指導の充実を図る必要があります。そこで、まずは来年度の新入生から年次進行で『髪型指導の導入』を考えています。このことについて先生方、在校生、生徒会役員の生徒、本校を志望している中学生、その中学生の保護者、近隣住民の意見を聞いてから結論を出したいと思います」と話した。

※「年次進行」とは、1年目は1年生のみ、2年目は1・2年生、3年目に全校生徒と、3年間かけて導入すること。

立場：教員・在校生・生徒会役員・中学生・中学生の保護者・近隣住民 意見：[賛成・反対]

(自分が考えたその理由)

- ・このままこの状況が続いて、母校がなくなるのは悲しい
- ・黒ではなくてはだめという風にしなくて、髪色のトーンを指定するなどする
- ・自由な校風にひかれて入学した。将来母校に戻った時に全く違う校風になっているのは残念

(3) 役割ごとの班分け (5分間) フレイクアウトルーム分け

- ①教員 ②在校生 ③生徒会役員 ④A高校志望の中学生
⑤A高校志望の中学生の保護者 ⑥近隣住民

(4) 役割ごとの話し合い (10分間) フレイクアウトルームで

(5) 休憩 (5分間)

コメントの追加 [Wユ1]: どの立場ですか？

コメントの追加 [Wユ2]: 確かに、また、学校の存続問題は大きいです。公立高校が廃校になるかどうかの一番のポイントは、入試の倍率です。2年連続で定員割れしたら目を付けられます。教育委員会にしてみれば、県民の二重の負担のない学校に税金をかけられないからです。都立高校の例では、髪型指導を実施した学校の大半は入試倍率が上がっています。理由は、簡単です。中学生・保護者が高校を決める時、学習塾の先生の助言を受けますが、塾の先生は生徒指導がしっかりしていない高校にダメ出しするからです。廃校になると母校がなくなってしまうので、卒業後に在籍証明書などをもらうときに、隣の県立高校の事務室に行って「A高校の卒業生なんですけど、・・・」と言うと、変な顔をされます。(体験談)

コメントの追加 [Wユ3]: 実現可能ですか？

ルーム間の移動を学生自身で行えるはずである。この機能は、ジグソー学習や合同発表会を行う上で極めて有効である。早速、授業で用いようとしたが、学生が使用しているパソコンやスマートフォン等の機種やzoomのバージョン等によってブレイクアウトルームのメニューや方法が異なり、操作方法について学生に十分な指示ができないため、今後の検討課題とした。(図5-1、図5-2参照)。

(カ) 模擬授業

教師役である学生が黒板やパワーポイント等を用い教室で行うのが本来の模擬授業であるが、コロナ禍のオンラインでは、どうしてもパワーポイント主体の授業になるのはやむを得なかった。それでも、模擬授業では、発問と返答の他に30分間の持ち時間内で「ブ

レイクアウトルームを効果的に用いる」「生徒役が、記入したプリントをカメラに近付けて見せながら発表させる」「zoomのホワイトボード機能を用いて板書する」など随所に授業の工夫が見られた。一方、生徒役の学生には、模擬授業中に気付いたことを何回でもその場でチャットに記入させ、授業後の研究協議に生かした。チャットがどんどん記入されていくのを見ると授業をしにくいので、授業者にはチャットウィンドウを閉じて授業を行うよう指示した。同時に筆者は、模擬授業を見ながら評価票を記入した。さらに、授業者が模擬授業を振り返るため、受講生の許諾をとってzoomで動画を録画した。模擬授業の後、動画と評価票とチャット記録を授業者に送った。このことは、授業者に極めて好評であった。なお、授業者については、希望を募った。積極的な希望を期待したが、予定した

(6) 元の班に戻す作業 (5分間) フレイクアウトルーム分け直し

(7) 元の班での話し合い (15分間)

立場ごとに意見を述べて協議し、班の結論を出しなさい。

結論：[賛成]

(その結論を出した理由)

- ・個性を出すのは外見ではなく中身(先生)
- ・髪を染めるのは大人になってからでもよい(先生)
- ・近隣の方々から苦情が来ているのは現状。地域の方々の意見にも耳を傾けて協力してよい学校にしたい。
- ・ただし髪色の制限(トーンいくつまで)を設けるなどして、自由な校風は続けてほしい。

(8) 発表 (②分間) × 3班 by 教員 (フレイクアウトルーム2室3班) ≤8分間

(9) 今日の授業に関する質問・感想

私の中高は制服も髪色の規制も厳しかったため、染めたいという気持ちはあっても校風に従って生活していました。容姿で個性を表現することも大切だけれど、学校は嫌なこともやる習慣をつける場所でもあるということを知ることがあります。社会に出るとどうしても自分のやりたいことだけをやって生きていくのは難しいと思います。社会にもルールがあり、みんなそれを守って生活しています。今回の髪色の問題は、校風が乱れているためルールを作ろうということですが過度に自由を規制するのではなく条件を設けて校風を正す必要はあると思います。自分は生徒会としての意見を出しましたが生徒の意思をくみ取りつつ学校の将来を考えて発言できたと思います。また、他の高校の校則の話を知ることが出来てとても参考になった話し合いでした。

図 5-2

コメントの追加 [Wユ4]: 確かにこの議論はあります。ただそうすると、制服やスポーツのユニフォームも没個性の象徴なので反対ですか？

コメントの追加 [Wユ5]: なるほど。

コメントの追加 [Wユ6]: 本人の努力では変えられないこと(皮膚の色、出生、国籍、年齢、性別、ウイルス感染、等)で差別しない、されないようにすることが人権教育の基本的な考え方です。人権教育は、学校教育の最優先事項です。髪色の色も皮膚の色と同様、人権問題に大きく関わります。そのため、入学前から周知し、承知で入学してもらうことが重要になります。承知で入学したということは、生徒・保護者と学校との契約関係が成立したことになります。その場合は、人権問題になりません。

コメントの追加 [Wユ7]: 実際、指導可能ですか？

コメントの追加 [Wユ8]: 昔から言われてきたことは、「学校は社会の縮図」理論です。社会にはたくさんさんのルールがあり、学校は初回に出るための訓練(練習)をする場でもあるという考え方です。言い換えれば、校則も守れない人間が社会のルールを守るのかという発想です。最近では、ブラック校則など、校則の在り方が問題視されています。規制をずる以上、生徒が100%満足する校則はあり得ませんが、学校と生徒が話し合う場は必要でしょう。

コメントの追加 [Wユ9]: それは、よかったです。

人数に若干差しなかったため、不足分については乱数を用いて授業者を決めた。指名された学生は入念にパワーポイント準備していたので、模擬授業が嫌なのではなく、自ら模擬授業を希望することにためらいや恥じらいがあると思われる。

(キ) ティーム・ティーチング (TT)

恐らくオンライン授業でティーム・ティーチングを行ったのは初めてであり、あまり事例を聞かない。H大学では、3年生の「教育実習事前指導」と4年生の「教職実践演習」は、理科と数学でときどき合同授業を行っている。したがって、ここでいうティーム・ティーチングとは、理科授業者と数学授業者(筆者)によるものである。回ごとに T1(ホスト)と T2(共同ホスト)を入れ替え、ブレイクアウトルームにおいては T1と T2 がそれぞれルームを巡回し、必要に応じて指導・助言を行った。ブレイクアウトルームでは意図的に理科と数学合同の班編成とし、教科等横断的な視点を意識した。また、授業者自身も互いの授業に加わることで指導法の改善に資することができた。筆者自身も「アイス・ブレイキング」「ブレイクアウトルームを用いた合同発表会」などを学ぶことができた。

(ク) 提出課題へのコメント記入及び返却

対面授業では、紙で提出された課題に朱でコメントを書いていたが、オンライン授業では、Microsoft Word に記入したデータのまま提出させた。それに対して、筆者が Microsoft Word のコメント機能を用いて、必要な個所にコメントを記入していくという方法である。当初は提出された課題をプリントし、朱でコメントを書いたものをスキャンして pdf ファイルにして返却しようと考えたが、その方法で毎回3大学80人程のコメントを書くことは不可能なので上記の方法を考えた。学生の書いた文章を読んではその箇所にコメントを書くわけだが、学生の記述量の多さと学生に伝えたい内容の豊富さのため次第にコメントの量が増えてしまい、結果として膨大な量のコメントを書いた。学生の書いたものを読むのは極めて楽しかったが、コメント書きの負担は膨大であり、改善の必要がある。そのための手だてとして、筆者は途中で音声入力を用いてみた。Microsoft Word と Google Document を用いて比較してみたところ、日本語変換の正確性については、後者の方が幾分高いように感じた。そこで、後者を用いてコメントを音声入力で文章化し、それをコピー&ペーストして課題のコメント欄に貼り付ける方法を取った。確かにキーボードから入力するよりは楽

ではあるが、回を重ねるにつれてコピー&ペーストの手間も結構な負担になった。ショートカットキーを使ってもなかなかの作業量である。結局、この解決は、今後の課題として残った。

(7) その他

① 講義部分の工夫

授業の初めに、筆者がパワーポイントで講義を行うわけだが、対面授業と明らかに違うのは、ビデオ OFF の（顔を出していない）学生が多いということである。前述のとおりビデオ ON を強制することができないので構わずに講義を行ったが、何しろ授業（講義）をしづらいことこのうえない。まるで TV 講座を行っているようである。オンライン授業では、雑音防止のため、学生はミュート（音声 OFF）で授業を受けるのがエチケットとなっている。つまり、対面授業とは違い、無音・無表情・無反応の中で講義をすることになる。学生の表情が見えないので、理解できたのか否かの判断もできない。このことは、模擬授業を行った学生も同じ感想を述べていた。なかなかいい解決法は見付からなかったが、時々発問したり、zoom の反応機能を用いて挙手させたりして若干でも反応を把握するようにした。なお、ミュート中に発言するとき、パソコンのスペースキーを長押ししてミュートを解除するという機能は、突然の発問に答えさせる際に有効であった。

さらに、4 月当初にはなかった機能であるが、zoom の Ver5 から、パワーポイントのスライドを仮想背景として映す機能が加わった。これにより、パワーポイントのスライド画面の隅に授業者の顔が映し出され、話している様子を学生が見られるのである。対面授業ほど大きく映るわけではないが、授業者の表情や若干の身振りも見えるので、対面授業的な雰囲気にはなる。この機能の欠点は、スライドショーが使えないということである。したがって、パワーポイント上で動画を見せたり、順次文字や図を見せたりしていくことはできない。要は、スライド画面を pdf にしたものを提示するのと同じことである。スライドショーによる動的な効果をねらうのか、授業者の表情を見せる効果をねらうのかは教材による。効果の期待できる方を選べばよい。実際に授業で用いた印象では、いろいろな選択肢はあった方がよいと感じた。加えて、Ver.5.4.3 からは、複数のファイルを同時に画面共有できるようになり、授業の効率化を図ることができた。

② 休憩の必要性

S 大学の授業では、授業に対する感想や要望の中で、「zoom による授業に慣れていないので、90 分間連続

では疲れる。休憩を入れてほしい」という要望が多くあった。5 月頃であり、zoom による授業が定着していない時期であったため、授業が 50 分経過した頃（グループワーク 1 回目と 2 回目の間頃）に 5 分間の休憩を入れた。他の 2 大学の学生からは特に要望がなかったため休憩を入れなかった。それは、他の 2 大学は理系の学生であり、比較的パソコン操作に慣れていたからではないかと考えられる。

4 研究のまとめ

(1) 研究成果

ア 学生による授業改善アンケートから

H 大学、S 大学、M 大学の前期授業に対する授業改善アンケートによると、下記の通りであり、受講者である学生の多くは、オンラインによるアクティブ・ラーニングに対して肯定的に受け止めていた。

【H 大学】受講者 24 名中、アンケートへの回答 15 名

(7) zoom によるオンライン授業についての採点

・5 段階評価 全員が評価 5

(イ) 自由記述より抜粋（原文のまま）

- ・実際に話し合うことで積極的に発言しようという気持ちがありました。zoom でもディスカッションができ、他の人の意見も知れてよかったです。
- ・zoom の授業においてもグループで話し合う機会があり、他の人の意見を聞くことができました。自分では気づけなかった部分や同じ考えを持った人など様々で毎週考えさせられるものばかりでした。
- ・教師であった経験を混ぜながら、学生に考えさせる授業構成だったので、新しい発見ができることと教育現場の現状がわかること、自分が考えることを他に発信できることが良かったと思います。
- ・zoom をうまく活用していたと思います。グループワークや模擬授業などスムーズでした。
- ・学校に出向けない中、zoom での授業となったが、できるだけ教室での授業と同じように仲間と意見の交換もできた点が良かった。
- ・他の人との意見交換をすることで、いろいろな意見を知ることが出来たことが良かった。
- ・グループワークなどで話す機会があり退屈しなかった。
- ・毎回の授業でグループに分かれて意見交換をする機会があったので、オンラインでも充実した授業になった。
- ・グループ活動の後に必ずグループごとの意見を発表

して、より多くの人の意見が聞けて考えが深まったので良かった。

- ・課題を提出した後に先生からのコメント付きで返却されるのが、嬉しかった。オンライン授業だと課題を提出しても先生からの反応が返ってこない授業が多く、答えや考え方が合っているのか分からないまま先に進んでしまうので、この点が補えていて安心して授業に取り組めた。
- ・各課題に対して、自身でまた、他の生徒と考える時間があつた。
- ・翌日が課題の締め切りであり、復習をすぐに行うようになった。
- ・実際の現場の話など先生方の実体験が聞けた。
- ・自分では行わなかったが、模擬授業を聞き、教育実習前への意識を高められた。
- ・毎授業目標やねらいがしっかりと示されていたため、何を学ぶかわかりやすかったです。
- ・実際に予想されるケースをグループディスカッションに取り入れられていて、生きる知識が身についたと感じます。
- ・グループワークがおおく、自分だけでは出てこない意見が取り込めて大変勉強になった。
- ・問題、課題に対して自分で考える時間があつて、また、グループワークで自分の思いつかなかった意見を知れたので良かった。
- ・頻繁にブレイクアウトセッションでディスカッションをする時間が設けられていたため、自分の意見を他者に説明する機会や自分とは違った角度や視点をもっている他者の意見を聞く機会が多く与えられており、非常にためになる時間を過ごすことができたと思う。
- ・先生が提出課題に細かいコメントをつけてくださっていたことで、モチベーションも上がり毎回の課題に全力で臨むことができた。またそのコメントで気づかされることも多かった。
- ・授業ではオンラインにも関わらず、主体的・対話的な授業を展開なさっていたので、とても楽しい授業でした。他の授業では、zoom を用いた授業はいくつかありましたが、データダイエットのため生徒がビデオ ON やマイクをオンにすることは NG でした。これが実現できたのは少人数での授業だったからだと思います。
- ・グループワークをおこなっていたことがよかった。
- ・模擬授業など実践的な授業をしていたことがよかった。
- ・教員になってからの考え方などについて多方面から学ぶことが出来てよかったです。
- ・土曜の授業ということで最初は憂鬱に感じていたが

内容としては割と面白く全く苦痛ではなかった。オンラインの授業の中なかではトップクラスにいい授業だと思った。

- ・コロナで zoom を利用した話し合いでしたが、スムーズにでき、対応の凄さに驚きを感じました。
- ・先生の実験の体験談や、小話など、非常にためになるお話ばかりでした。この授業を通して、以前よりも教職についての理解が深まったと感じます。
- ・大変楽しく、有意義な講義でした。
- ・課題の量を取り組みやすい量で良かった
- ・より実践的な数学教育の話から学校現場の問題等に関して、自ら考えグループ活動を通じて自分の意見を発信・共有する時間が多く取られていたことで、一方的な講義よりも深い学習ができたと感じました。毎回の授業が本当に楽しみでこの授業を受けてよかったと思います。
- ・一人一人へのコメント等苦勞されることも多かったと思います。本当にありがとうございました。

【S 大学】受講者 26 名中、アンケートへの回答 7 名

(7) zoom によるオンライン授業に対する評価

Q: 授業に対する教員の意欲や熱意を感じましたか。

A: そう思う 80% ややそう思う 20%

Q: 板書や視聴覚教材の利用、資料の提示方法は適切でしたか。

A: そう思う 100%

Q: 授業に集中できるよう配慮をしていましたか。

A: そう思う 100%

Q: この授業を受講して有意義でしたか。

A: そう思う 100%

Q: この授業は全体としてわかりやすかったですか。

A: そう思う 100%

Q: この授業科目を総合的に評価して満足していますか。

A: そう思う 57% ややそう思う 14% どちらともいえない 14% そう思わない 14%

Q: 遠隔授業での課題提出の指示はわかりやすかったですか。

A: そう思う 83% どちらともいえない 17%

(イ) 自由記述より抜粋 (原文のまま)

- ・生徒指導と聞いて、とても固く難しいものかと思っていました。しかし、先生の授業は動画が使われていたり、体験談が聞けたりとても楽しかったです。オンライン授業が多くある今ではありますが、この授業は毎回班になって話す時間もあつたので楽しかったです。一度も会えなかったのがさみしいですが、先生の授業を受ける事が出来て嬉しかったです、あ

りがとうございました。

- ・グループワークがあったところがよかったと思います。
- ・同時双方向型の授業で、資料や課題の提出方法も分かりやすく、対面と変わらない充実感がありました。

【M 大学】受講者 7 名全員が記述式アンケートへ回答

(7) zoom によるオンライン授業についての採点

- ・5 段階評価 6 名が評価 5、1 名が評価 4

(イ) 自由記述より抜粋 (原文のまま)

- ・Zoom を使った授業でしたが、グループワークや模擬授業などと飽きずに取り組むことができたので楽しかったです。その点が良かったです。
- ・グループワーク前に考える時間が設けられていたり、反応をうかがったりしてくれたため、こちらもやりやすかったです。
- ・グループワークや個人研究での意見をまとめたプリントにも添削して頂き、振り返りにもつながったので、とてもよかったです。
- ・ほとんど自由にやらせて頂いたので、こちらもやりやすかったです。
- ・突然 Zoom 授業に変更になったので驚きましたが、有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。
- ・グループワークが多かったため、自分の考えを的確にまとめ、相手に伝える練習がたくさんできた点がよかったです。
- ・zoom 越しでも全員が顔を映し、発言の機会があることで対面の講義とあまり変わらない緊張感で講義に臨むことができた点がよかったです。
- ・グループワークの際に、実際に先生が体験した話などを聞くことができて、「自分が現場にいたら」をより具体的に考えることができた点がよかったです。
- ・毎回の課題に一つ一つコメントを書いてくださった点がよかったです。
- ・毎回の授業が刺激的で楽しんで受講できました。
- ・自分の新たな課題の発見など学ぶことも多く、この講義を実習に行く前に受けることで、実際に実習に行ったら、去年よりも具体的に考えることができるようになりました。とても有意義な講義だったと感じています。
- ・いつもとは全く違う環境ではありましたが、充実した講義をありがとうございました。ぜひ対面で講義を受けたいです。
- ・講義よりもグループワークが多く取り入れられていたため、オンラインでやりづらい中でも集中して取り組めた。

- ・毎回の課題にコメント付きで返却されるのは、大学 4 年生になってもうれしかった。
- ・コロナの中初めてのオンライン授業で不安があったが、先生は ZOOM を上手に使いこなしておりとても分かりやすくスムーズな授業だった。
- ・少人数だったこともあり、全生徒の意見・考え方をくみ取っており参考になった。
- ・高校教師時代の体験や事例などが多かったのでイメージしやすかったのは有難かった。
- ・毎時間の問題の難易度が簡単すぎず、程よく難しいグループ学習や発表の時間を設けている点がよかったです。
- ・Zoom での授業でしたが、実際の教育現場でもコロナ禍ではこのような状況での授業であると思います。そこで実際の現場を想定してみると、先生の準備力はとても勉強になりました。
- ・講義型の授業だけではなく、グループディスカッションも毎回取り入れてくださったのがとてもよかったです。講義のみの授業がほとんどなので、あまりいろいろな人の意見を聞く機会は多くないです。この授業では人の意見も聞けるし、自分が話すことにも慣れることができるのでとてもよかったです。
- ・今までの教職の授業の中で 1 番理解しながら学ぶことができたと思います。教職の授業がこんなに笑顔で受講することができたのは初めてです。(笑)
- ・教材の研究、生徒相談上の留意点、教師としてどのように生徒と向き合っていくのかを具体的に学ぶことができた。
- ・毎回の授業で実際に教員として働くことになったらぶつかるであろう問題にグループ協議を通してまなぶことができたのがよかったです。
- ・授業で扱う事例研究も現実味があり、面白い事例が多くあったので、前向きに取り組むことができました。

イ 授業実践から

zoom によるグループワークや Microsoft Word による提出課題などの授業実践を通して、次の点が成果として明らかになった。

- (ア) グループワークの形態を工夫すれば、学生が意見交換を行い、学びを深めることが可能である。
- (イ) ブレイクアウトルームを効果的に活用すれば、オンライン授業においてもアクティブ・ラーニングの実現は可能である。
- (ウ) ブレイクアウトルームを効果的に活用すれば、対面授業と同様、ロール・プレイングやディベートなど教員に必要な疑似体験を行うことができる。
- (エ) 出席確認や模擬授業中の意見交換など、チャット

機能を効果的に用いれば、手間と時間の短縮だけでなく、効果的な記録を作成できる。

- (f) ブレイクアウトルームでチャット機能を用いれば、班内のメンバー間でデータのやり取りが可能である。
- (g) zoom の動画録画機能を用いれば、模擬授業等を振り返ることが可能である。
- (h) 対面授業では膨大な量の印刷物が必要であったが、オンライン授業では完全なペーパーレスが実現できた。
- (i) 失敗マングラにおける「グループワーク無機能化」という点でいえば、教員の失敗原因である「過剰介入」「介入不足」や学生の原因である「発言しない」「提出物の不管理」は、オンライン授業でも全く生じなかった。

上記の**ア**と**イ**から、本研究の研究仮説「オンライン授業のよさを生かして指導内容や指導方法を工夫すれば、オンライン授業においてもアクティブ・ラーニングを実現できるであろう。」が正しいことが検証された。

(2) 今後の課題

ア 学生による授業改善アンケートから (原文のまま)

【H 大学】

- ・模擬授業でも zoom での授業は生徒の反応がわからず、戸惑ったし、改善すべき点も多く見つかったが、経験してよかったと思いました。
- ・テーマによってはほとんど似通った点が出てきたりして、なかなか違う意見が出なかったりしました。その時はどうすればよいのだろうと困ってしまい、いわゆる「キレイな考え方」とされるもので統一され、なかなかデメリットとされるのが思いつきにくい場面がありました。
- ・オンラインでのトラブルにどう対応するかをあらかじめ決めて生徒に提示しておく、生徒も安心して対応できると思います。
- ・話し合いの時間が少し短く感じた。
- ・意見をまとめた板書などが可能であれば欲しかった。
- ・内容は実際の教育の場を想定したものが多く、決まった解答がなく難しくは感じましたが、教育実習につなげていければと思います。

【M 大学】

- ・模擬授業だけはオンラインではどうにもならなかった。こればかりは仕方ないし、先生も悪くないので悪しからず。

上記のアンケートを見る限りでは、

- (f) 模擬授業での授業者による生徒の反応把握
 - (i) 議論しやすいようなテーマ設定の工夫
 - (g) 通信回線に関するトラブル防止・対応
 - (e) グループワークの時間確保
 - (o) 提出課題以外のグループワーク記録
 - (h) 討論時間・発表時間の確保と延長
- が、今後の課題として残った。

イ 対面授業と比較した課題

実践授業を通して下記の点が、今後の課題として残った。

- (f) 通信回線不良のため授業に参加できなくなった学生への対策
- (i) ブレイクアウトルーム中の評価法
- (g) ジグソー学習での班員の組み換え作業の簡素化
- (e) 提出課題へのコメント記入の負担軽減
- (o) 受講者のビデオ ON の問題
- (h) 途中休憩の必要性
- (k) オンライン模擬授業の限界
- (k) ディベートにおける複数回の作戦会議実施

特に、上記(i)「ブレイクアウトルーム中の評価法」について。授業者がブレイクアウトルーム間を行き来することは可能だが、どうしても限られた時間しかルーム内にいることができないため、公平な評価を行うことは困難である。ただ、発表会の場合は発表者を評価することができたので、発表者に限定して評価を行った。

上記の**ア**と**イ**については、継続して研究を進める。

5 引用文献・参考文献等

(1) 引用文献

- ※ 1 洗足学園音楽大学教職課程年報、(4),27-42 (2020-03-01), 2433-9245 「大学におけるアクティブ・ラーニングの実践研究 ― 授業実践を通じた成果と課題 ―」(田神 仁)
- ※ 2 中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(平成 24 年 8 月 28 日)
- ※ 3 文部科学省「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」アクティブ・ラーニング失敗事例ハンドブック (平成 26 年 11 月)

(2) 参考 Web サイト (zoom の使用法等に関する動画)

- ※ 4 ア イワツキ大学
https://www.youtube.com/watch?v=bbwumzN4_oU

<https://www.youtube.com/watch?v=8SJIGC55SnA>

イ パジちゃんねる

[https://www.youtube.com/watch?v=vSAMu-](https://www.youtube.com/watch?v=vSAMu-ym10Y&feature=push-)

[ym10Y&feature=push-](https://www.youtube.com/watch?v=vSAMu-ym10Y&feature=push-)

[sd&attr tag=Ni9XJly0h9FI8pkH%3A6](https://www.youtube.com/watch?v=vSAMu-ym10Y&feature=push-)

https://www.youtube.com/watch?v=HcmdR_2-J_E

<https://www.youtube.com/watch?v=C2fqzXAKaQ>

ウ iwa sen

<https://www.youtube.com/watch?v=Gus1fIMcE6E>

<https://www.youtube.com/watch?v=5upUE8ioyO0>

<https://www.youtube.com/watch?v=r87t1SQiNdc>

エ リービズ

<https://the-lead-biz.com/how-to-use-zoom/>

オ RouM

<https://roum.info/zoom/>

カ Mizuna

<https://www.youtube.com/watch?v=vloLxW7e6co>

<https://www.youtube.com/watch?v=vloLxW7e6co>

<https://www.youtube.com/watch?v=cJJ0ZTCaSRs>

キ \初心者でも会議・セミナーが始められる！／

15分でわかる zoom の使い方【特選テクニック付】

<https://www.youtube.com/watch?v=ckUdVqL3ZK8>

(3) 使用ソフト

ア ビデオ会議システム

- zoom Ver.4～Ver.5.4.3 (zoom 社)

イ ノイズキャンセリング

- Krisp (Krisp 社)

ウ ワードプロセッサ

- Microsoft Word (Microsoft 社)

エ ブラウザ

- Microsoft Edge (Microsoft 社)

オ 学習支援システム

- Hoppii (法政大学)
- SENZOKU ポータル (洗足学園音楽大学)
- MUSCAT (武蔵野大学)